

鳥取大学における知的財産活動事例

○山岸大輔、清水克彦、佐々木茂雄

(鳥取大学 産学・地域連携推進機構 知的財産管理運用部門)

はじめに

法人化以後、鳥取大学における特許出願数も年々増加し、ライセンス可能な案件もその数および技術分野ともに充実してきた。大学における知財活用に関しては、一般的に（１）知的財産権自身の活用を目的とした実施許諾や権利譲渡、（２）特許技術の展開を図る共同研究や受託研究、（３）研究成果の発展を目指した外部資金の獲得などが挙げられる。これらは技術シーズを実用化につなげるために不可欠な手段であり、開かれた大学の実現とともに、大学と民間・市場との交流の活性化にもつながることが予想される。本学においても、企業等が活用できる知的財産権について積極的にPRを図り、さらに効果的な知的財産の活用・展開にむけて、①活用に向けた他機関との連携、②各種シーズ発表会等での発表・展示、③冊子およびインターネット等による情報発信を行っている。

一方、知的財産の活用に向けた取組みには、成果に結びつけるうえで課題は多く、効果的な知財PRの方法について、試行錯誤が続いている。製品開発後の販路開拓もその一つであるが、大学として協力できることも限られている。今回、鳥取大学におけるシーズ発表会および展示会における活動事例から、知財活用における効果的かつ効率的なPR方法について考察した。

主な取組事例

①活用に向けた他機関との連携

中国地域産学官連携コンソーシアム事業による中国地域の大学および研究機関と連携し、HPによる特許等技術シーズの紹介、また県内の知的財産関係機関との連携において、各機関が取組むべき課題や知財を活用した産業振興等を検討し、活用促進に向けた情報交換を行っている。

②各種シーズ発表会等での発表・展示

JSTやNEDOの主催によるシーズ発表会および展示会など、大都市圏での展示会において企業とのマッチング機会を増やし、技術移転、共同研究の推進を行っている。

③冊子およびインターネット等による情報発信

県内の企業、大学等が有する有用特許を掲載した「鳥取県版特許集」ならびに「鳥取大学特許シーズ集」を作成し、金融機関等に多数配布し、企業訪問等で随時紹介している。鳥取県知的財産ポータルサイト (<http://www.tottorichizai.com/>) など、インターネットで公開し、知的財産に関する情報を発信している。

考察

これまで産官学連携による知的財産活動の取組みによって、知的財産に対する関心は高まってきており、出願数は増加する傾向にある。一方、より一層の特許活用の成果が求められている。活動事例として、ライセンス製品の市場展開に向けた企業の取組みと連携し、大学の知財PRを進めていく方法は、情報発信として一定の成果があった。今後は、さらに効果的なPRが可能となるよう、他機関および企業との連携を進めていく予定である。